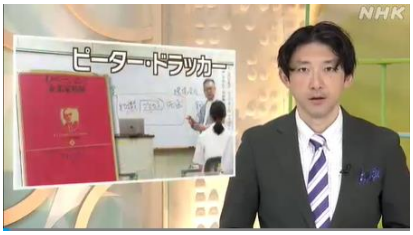
高校生が地域課題を解決 「ドラッカー」の著書から方法を探る　商業研究部



06 月 15 日　19 時 06 分

高山市の高校で生徒たちが２０世紀を代表する経営学者、ピーター・ドラッカーの著書から地域課題の解決方法を探ろうという取り組みを行っています。

この取り組みは県立飛騨高山高校の商業研究部の部員９人がことし４月から進めています。
ドラッカーの著書では「予期せぬ成功や失敗が大切だ」とかかれていて、生徒たちは地元の１０の事業者に実際にそうしたケースがあったかを聞き取りました。
その結果、額縁店ではサイン入りのユニフォームや子どもの靴など立体的なものを額縁に入れてほしいという依頼が増えたため、実際にそうした商品を作って販売していることなどがわかりました。
１４日はこうした内容を高校を訪れたドラッカー学会の佐藤等共同代表に報告し、佐藤共同代表は「新しい価値は古いものの組み合わせから生まれる。ドラッカーの言うように今起こっている変化を知覚して分析することが重要で、なぜ額縁と立体という古いものの組み合わせで依頼が増えているのか、分析することがイノベーションのヒントになる」と話していました。
２年生の女子生徒は「イノベーションは勘ではなく方法と原理に基づいていることがわかったので、アイデアだけに頼るのではなくもっと観察や分析をしていきたい」と話していました。
生徒たちは１０月に高山市で行われるドラッカー学会で、取り組みの成果を発表する予定で新しい商品の開発も目指しているということです。

ＮＨＫ　　令和５年６月１５日（木）